

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立六角小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>○「志を高める教育」「特別支援教育」「職員の資質向上(授業改善)」において、さらに向上に努める。特に、地元佐賀や白石町を誇りに思う教育、学習活動の充実が必要である。</p> <p>○自己肯定感を高める「人権教育」「道徳教育」に取り組み、今後もいじめのない学校づくりを目指す。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	自ら学び、心豊かに成長し続ける児童の育成
----------	----------------------

3 本年度の重点目標	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>②人権教育、特別支援教育の充実</p> <p>③地域を知り、地域に学ぶ活動の充実・発展</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		
				達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・教職員個々のでマイプランを校内研修で共有し、学校全体で取り組むこと、各学年で取り組むことについて共通理解を図る。	A	・学力向上に向け課題を把握して共通理解を行い、マイプランの成果指標を達成できたと回答した職員は100%であった。	かしこく部
	○学び合う楽しさを味わい、考えることを楽しむ授業の実践	○課題提示や「めあて」についての質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合80%以上	・学習意欲を引き出すような、分かりやすい「めあて」につながる課題提示を行う。 ・児童が学習内容を具体的にイメージできるめあてを設定	A	・分かりやすい授業づくりに取り組んでいると回答した職員は91%であった。授業改善の意識が高まってきている。	かしこく部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分や友達のよいところを見つけることができる」と回答した児童を90%以上	・人権に関する授業や放送の実施、道徳に関するアンケートの実施をする。 ・児童自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるように、道徳の授業を充実させる。 ・日常的に「よさ」を見つける活動を行う。	A	・「自分や友だちのよいところを見つけることができた」と回答した児童は96%であった。「やさしさの木」の取り組みや、クラスでの日常的な「よさ」見つけの取り組みで、自分や友だちのよいところを見つけようとする意識が高まった。	やさしく部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員を90%以上	・教育相談体制やいじめの認知・覚知に対する対応マニュアル見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。 ・いじめに関する授業を年間に1回以上実施する。	A	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応、組織対応ができていると回答した職員は91%であった。清潔検査での月1回のふり返りや、いじめに関するアンケートを実施し、いじめの発見、組織対応ができた。いじめに関する授業の提案を行い、授業実践ができた。	やさしく部
	○特別支援教育の充実	○特別支援に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上にする。 ○「友達のよさがわかり、仲良く助け合うことができる」と回答した児童を90%以上	・特別支援に関する研修会を年間に1回以上実施する。 ・必要に応じてケース会議を開催し、情報を共有し支援に活かす。 ・保護者並びに関係機関と連携し、学校全体で個に応じた支援を行う。	B	・特別支援教育を「学ぶ」ことができた職員は83%、「仲よく助け合うことができた」と回答した児童は93%であった。必要に応じたケース会議を開催し情報を共有し支援に活かすなど子に応じた支援はよくできたが、職員に対する研修は不十分であったので、来年度は、校内研修や外部講師招聘等を行い、さらに資質向上に努めたい。	やさしく部
●健康・体づくり	②望ましい生活習慣の形成	②家庭や学校、地域で「挨拶や礼儀正しい言葉遣いができる」「進んで外遊びや運動に取り組んでいる」と回答する児童85%以上	・児童の振り返りと実態把握、教職員の情報共有を定期的に行う。 ・自発的に取り組める縄跳びカード等を配布したり、よく頑張っている児童を取り上げて紹介したりする。	A	・「望ましい生活習慣の形成に向け、指導をしている」と回答した職員は100%。「進んで外で遊んだり、運動したりしている」と回答した児童は88%だった。コロナ禍で友達との接触や外遊びが少ない中でも、「体力アップカード」の活用により、運動を維持することができた。	たくましく部
	○安全に関する資質・能力の育成	○「学校のきまりややくそくを守ることができている」と回答した児童90%以上	・学校安全計画や安全教育の取組の見直しを行い、全職員の危機管理意識を高める。 ・これまでの避難訓練での課題を明らかにし、より実践的な訓練を実施する。	A	・安全・安心な学校づくりに向け、危機管理意識を持って学校教育活動に取り組んでいると回答した職員は100%。「学校のきまりや約束を守っている」児童は94%。 ・避難訓練マニュアルの見直しを図り、効果的な動きになることができた。 ・情報モラルの啓発を行うことができた。	たくましく部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・月々の時間外勤務状況を開示し、意識づけを図る。 ・町内一斉定時退勤日に合わせ毎週1回の定時退勤日を徹底する。	A	・達成率は93%と中間評価よりも向上した。時間内の業務の意識が浸透してきた。また効率的、能率的、協力的業務が推進できるようになった。時期、仕事量により若干時間外勤務が多い職員がいることは今後の課題である。	管理職
	○長期休業期間における年休取得の推進	○昨年度同等または1日以上多い休暇取得を達成した教員90%以上	・夏季休業期間の行事や研修等の見直しと効果的な実施 ・夏季休業期間は3日以上、冬季休業期間は1日以上年休取得	A	・冬季休業期間は全職員1日以上年休取得ができた。全職員の年休取得平均は2.4日であった。また課業日であっても計画的に年休取得ができていた。	管理職
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		
				達成度 (評価)	実施結果	
◎志を高める教育	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎地域(六角、白石町、佐賀県)への愛着やよさについて、肯定的な回答をした児童80%以上	・地域の教育材(人、もの、こと)を活用した授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動の年間計画作成や見直しと、活動の見直しや学びの振り返りの	A	・2学期以降は、感染症対策をしながらできることに取り組んだ。各学年段階で、外部指導講師を招いたり、校外学習を取り入れたり、地域学習が充実したものとなった。今後も、新たな活用を見だし、学習機会を位置づけていく。	管理職、担任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・「心の教育」で、学校関係者評価が全てB評価であった。それを考えると、私たち教職員がより一層人権感覚を磨き、人権意識を高め、子どもたちの人権意識醸成に取り組んでいかなければならないことが浮き彫りになった。授業の中で、学校行事の中で、目的意識をしっかりと持ち、年間を通して継続的・積算的に取り組んでいかなければならない。</p> <p>・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」においても、まだまだ教職員の年休取得が進んでいない。学校全体として、そして教職員個々の業務改善を意識し、ワーク・ライフバランスの取れた働き方を推進していかなければならない。</p> <p>・「志を高める教育」も、この地域ならではの授業、行事を仕組み、さらに郷土を誇りに思う児童を育てるために、私たち教職員が地域の「ひと、もの、こと」を意識し、授業づくりに専心しなければならぬ。</p>
--------------------	--